



JA やさと有機栽培部会の有機野菜は…

1. 化学肥料は使用しない。有機肥料 100%で栽培
2. 除草剤および土壌消毒剤は使用しない
3. 化学合成農薬は使用しない
4. 輪作・緑肥を重視する
5. ゲノム編集、遺伝子組み換えされた種子を使用しない

→つまり安心・安全に食べられる

今が旬!

石岡市で生産されている有機野菜



かぶ



レタス



たまねぎ

このほかにきゅうり、ねぎ、にんじんなどの栽培も盛んです

豊かな自然の中、太陽の光を浴びて野菜とともに成長する。今、石岡市の農業に熱い視線が注がれています。農業の明るい未来に向かって、市は農家を志す皆さんとともにチャレンジしていきます。

この特集では、有機野菜を取り巻く市の現状と有機栽培農家の皆さんの取り組みを紹介していきます。

NEWS!



JA やさと有機栽培部会が 日本農業賞 集団組織の部で大賞を受賞

日本農業賞とは…?

NHK と JA 全中、JA 都道府県中央会が主催の、日本農業の確立をめざして意欲的に経営や技術の改革に取り組み、地域社会の発展にも貢献している農業者と営農集団に与えられる賞です。

JA やさと有機栽培部会は、第52回日本農業賞集団組織の部で大賞を受賞し、3月4日に表彰されました。



▲JA やさと有機栽培部会・部会長の田中宏昌さん（一番左）と前部会長の岩瀬直孝さん（左から3人目）

JA やさと有機栽培部会ってなにがすごいの？

1997年に発足した部会は、現在30世帯で構成されており、全世帯が有機JAS認証を取得しています。資源循環の意識を持って農業に取り組むとともに、平地が少なく大規模農業の展開が難しいJA やさと管内において、付加価値の高い有機農業を推進しています。

今回は、各部会員の独自性のある取り組み、県や市、生協などと提携した販路の拡大により販売収入を安定して増加させたこと、消費者との積極的な交流や食育への取り組みにより地産地消を推進したことなども評価されています。

また、JA やさとが開設した「ゆめファーム やさと」は、1999年の開設以降、毎年1組の夫婦を研修生として受け入れ、有機農業を目指す農業者の育成を行っています。

有機農業の可能性を信じて 常に努力を続ける

J A やさと有機栽培部会 鈴木央ひましさん



鈴木央さんがJ A やさと主催の「ゆめファームやさと」にて研修課程を終了したのは平成26年。その後9年にわたり、J A やさと有機栽培部会の会員として有機農業に従事しています。

鈴木さんが管理している圃場ぼやばは3ヶ所で約240アール。ほぼ毎日、いずれかの圃場にて作業を行っています。

健康な土づくりを目指して

鈴木さんが小松菜の栽培に使用した肥料は、もみ殻入りの豚糞からできた堆肥。これらの有機肥料は窒素・リン酸・カリウムなどを含む化成肥料と比較して一酸化二窒素の排出を抑えられると同時に、土壌で炭素貯留（二酸化炭素を吸収・固定）もできるため、温暖化対策の効果が高まります。

また、種を播いて育てたイネ科・マメ科などの植物そのものを土壌にすき込み使用する「緑肥」という植物由来の肥料を使用することもあります。

「健康な野菜は健康な土から」

丁寧な土づくりを行い、圃場を可能な限り自然に近い状態に保つ鈴木さんの姿勢からは、有機農業に対する熱意が伝わってきます。



▲もみ殻入りの豚糞を用いた堆肥

安全な野菜を届けるために

鈴木さんは野菜の種類ごとに使用する肥料を変えています。収穫期に入るまで、その野菜に動物由来・植物由来いずれの肥料が適していたかは分からないため、肥料を変えることは大きな賭けとも言えます。今年はどうれん草の栽培に緑肥を使用しましたが、思ったような成果が得られなかったそうです。

しかし、鈴木さんは失敗にくじけず、試行錯誤を重ねます。「おいしくて安全な野菜が届けられるよう常に努力を続けたい」鈴木さんの挑戦はこれからも続きます。



▲ジャガイモ畑に立つ鈴木央さん

食べてくれる人の 笑顔を思い浮かべながら

JAやさと有機栽培部会

渡邊拓海さん・若菜さんご夫婦



農業研修施設である朝日里山ファームで2年間の研修を受けた渡邊拓海さん・若菜さんは、4月から有機栽培農家として農業をスタートしました。

そもそも朝日里山ファームに応募したきっかけは、若菜さんが見ているテレビ番組。大学の園芸学部を卒業した2人ですが、生家が農家でなかったため、農業からは離れていました。偶然の出会いでしたが、朝日里山ファームでは先輩農家の皆さんの指導のもと、実践的な知識や技術が学べたと2人は話します。

わが子を慈しむように

現在、2人は約150アールの圃場でピーマン、きゅうり、小松菜、ダイコン、ネギなど多品目の野菜を栽培しています。栽培方法はその野菜に応じて異なり、きめ細やかな配慮が欠かせません。

例えば、早い時期に種を播いた短ダイコンは不織布で覆い、寒さから守ります。ピーマンは防風ネットで風から守り、ネギは夏を越すために白いビニールで熱を逃します。

「有機野菜は袋詰めまで自分たちで行います」と話す若菜さんは愛おしげに野菜を見つめます。



▲ネギを栽培するビニール

どんなに手間がかかっても除草剤や農薬は使用できないのが有機農業の難しいところ。渡邊さんも無農薬のワラを圃場の通路に敷き込むことで草が生えることを防いだり、透明のビニールで土を覆い、太陽の熱で土中の殺菌・殺虫を行ったりしています。地道で手間のかかる作業の多い有機農業ですが、拓海さんは「有機野菜の良さをもっと消費者の皆さんに知ってもらいたい。その一念で頑張っています」と話してくれました。渡邊さんが育てた有機野菜には消費者への思いが込められています。



▲ジャガイモの苗と渡邊さんご夫婦

おいしくて安全・安心な有機野菜を食べよう



▲ JA やさと柿岡直売所内の有機野菜コーナー

JA やさと有機栽培部会の皆さんが生産した野菜は、生協やスーパーなど様々な販路を通して消費者のもとへ届けられています。

JA やさとの直売所では、部会の皆さんが生産した季節ごとの新鮮な有機野菜が購入できます。

【概要】

○ JA やさと柿岡直売所

住所：柿岡 3638-1

電話：44-8310

○ JA やさと里の四季

園部直売所

住所：宮ケ崎 472-2

電話：46-6479



▲ JA やさと柿岡直売所



▲ やさと農業協同組合営農流通部 営農指導課の酒井健朗さん

JA やさとと、有機栽培部会のこれまでの取り組みが全国的に大きく評価されたことを大変うれしく思っています。今後も生産者を支援していけるよう、JA として販売先の拡大に努めていきます。

有機野菜は給食でも使われています！

【2021 年】

有機きゅうり 382kg 有機レタス 72kg

【2022 年】

有機きゅうり 595kg 有機レタス 318kg

有機小松菜 367kg

就農準備

- ・農地の確保
- ・資金の確保
- ・青年等就農計画の作成
- ・施設、機械の購入

技術・知識を学ぶ

- ・先進農家のもとで長期研修
- ・農業研修教育施設 など

体験する

- ・農家での体験研修
- ・農業インターンシップ

品目を決める

- ・露地栽培、施設野菜、果樹、畜産など

イメージを描く

- ・自分で農業経営か、農業法人へ就職か
- ・出荷か、直売か
- ・家族主体か、人を雇い大規模農業か

相談する

- ・農業について情報収集
 - ・農業の基礎知識を身につける
- 相談窓口
- 市農政課 Tel 43・1111

就農までは、大きく以下の流れとなります。段階を踏んで、就農について検討し、準備を進めましょう。

農業に興味を持った方へ

就農までの道すじ

